

Team Le Mans

2019年 SUPER FORMULA シリーズ Round.5 ツインリンクもてぎ レースレポート

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

UOMO SUNOCO SF19

#7 Artem Markelov

#8 Kazuya Oshima



SUNOCO

UOMO

MAEDA
SHELL SERVICE / OIKEN

Dwitech

DMG MORI

カト一機械株式会社

EVER
CORPORATION

制御盤三笠

TONE

DAIDO
大井建設工業株式会社

JOTO DIRECT

ニチキン

WPC

EVES

広島化成株式会社
HIROSHIMA KASEI, LTD.

sparco

WINCOS

三ツコパイント

asics

Racing Development
TRD

T.D.P.

GR TOYOTA GAZOO Racing

YOKOHAMA

大会概要／大会名称

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 ツインリンクもてぎ 2 & 4レース

開催日時

8月17日 土曜（予選） 8月18日 日曜（決勝）

開催サーキット

ツインリンクもてぎ ロードコース（1周 4.801km） 所在地：栃木県芳賀郡茂木町松山120-1

同時開催レースカテゴリー

- ・2019年 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第5戦（2輪 JSB1000クラス）
- ・2019年 全日本F3選手権 第16戦&第17戦&第18戦 ・2019 N-ONE OWNER'S CUP Rd.8

主催

4輪：エムオースポーツクラブ（M.O.S.C.） / 株式会社モビリティランド
2輪：一般社団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会（MFJ） / 株式会社モビリティランド

公認

4輪：国際自動車連盟（FIA） / 一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）
2輪：国際モーターサイクルリズム連盟（FIM）

協力

2輪：エムオースポーツクラブ（M.O.S.C.）

認定

株式会社日本レースプロモーション（JRP） / 日本フォーミュラ3協会（JF3A） / Honda ワンメイクレース事務局（HORS）

後援

スポーツ庁 / 観光庁 / 茂木町



◆ UOMO SUNOCO TEAM LEMANS 参戦体制

■ ドライバー



#7 アーテム マルケロフ
ARTEM MARKELOV

生年月日 1994年9月10日
出身地 ロシア
身長 182cm
体重 73kg
血液型 RH-O

■ 監督



片岡 龍也
TATSUYA KATAOKA

生年月日 1979年5月1日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 75kg
血液型 RH+O



#8 大嶋 和也
KAZUYA OSHIMA

生年月日 1987年4月30日
出身地 群馬県
身長 171cm
体重 61kg
血液型 RH+A

■ スタッフ

#7 チーフエンジニア	森藤 健吾	#8 チーフエンジニア	阿部 和也
#7 チーフメカニック	小倉 啓悟	#8 チーフメカニック	北井 修司

■ スポンサー

日本サン石油株式会社	TONE株式会社	リンテック株式会社
株式会社集英社UOMO	大同基礎工業株式会社	アシックスジャパン株式会社
株式会社前田シェルサービス	城東電機株式会社	株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント
株式会社オウルテック	株式会社ニチネン	トヨタ・ヤング・ドライバーズ・プログラム
DMG森精機株式会社	株式会社不二WPC	トヨタ自動車株式会社
カトー機械株式会社	引田時計店	横浜ゴム株式会社
エバー株式会社	広島化成株式会社	
株式会社三笠製作所	エンバイヤ自動車株式会社	



◆ 予 選

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	38度 (予選Q1開始時)
路面温度	49度 (予選Q1開始時)
予選開始	14時30分



残り3戦となった2019年のスーパーフォーミュラ、第5戦は栃木県にある「ツインリンクもてぎ」のロードコースが戦いのステージとなり、真夏の決戦という図式になる。ブレーキングが重要なコースレイアウトのもてぎだけに、人車にとってタフな灼熱の一戦となることは必定。天気予報的にも酷暑が予想される状況でレーススウィークへ。第2戦オートポリスで大嶋和也が3位に入る好結果を残したUOMO SUNOCO TEAM LEMANSだが、ハイレベルな接戦のなか、ここ2戦は不本意なりザルトに甘んじている。ただ、そのなかでも前戦の富士では大嶋が予選最終セッションのQ3に進出するなど好転要素もあり、シーズン終盤に向けて再浮上を果たすべく改善を続けているところだ。うまく流れをものにして、また表彰台圏内で争うレースを実現していきたい。猛烈な暑さのもと、まずは大嶋とマルケロフが3段階ノックアウト方式の予選に挑む。

#7 アーテム・マルケロフ選手

予選結果：19位 (予選Q1ベストタイム：1分34秒386)

予選Q1は、2種類あるドライ路面用タイヤのうちの硬い方=ミディアムのみ使用可能。20分間あるため、途中でタイヤを履きかえての2回のランが基本線で、その2回目を実質的な勝負となる。初めてもてぎで戦うマルケロフ、1分34秒386をマークした時点では一時的にQ2進出圏の12番手につけたが、最終的には19位ということに。

#8 大嶋和也選手

予選結果：17位 (予選Q1ベストタイム：1分34秒086)

Q1突破をかけての2度目のラン、大嶋はまず1分34秒382をマークしてQ2進出圏の12番手に。しかしライバルたちのタイムが出揃うと、圏外へと下がってってしまう。翌周、大嶋は1分34秒086へとタイムアップする。だが、それでもQ1突破には届かず、順位は17位にとどまった。残念ながら2戦連続の予選上位進出とはならなかった。



◆ 決勝

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	37度 (決勝スタート前)
路面温度	49度 (決勝スタート前)
決勝レース開始	14時15分 (フォーメーションラップ開始)
周回数	51周 (フォーメーションラップやり直して当初予定の52周から1周減算)



#7 アーテム・マルケロフ選手

決勝結果：12位 (所要時間：1時間23分37秒417、ベストタイム：1分35秒282 =全選手中のファステストラップ)

決勝日も猛暑。フォーメーションラップに出遅れるマシンがあったり、グリッド帰着時にストールするマシンが複数あるなどして、レースはフォーメーションラップやり直し、1周減算の51周で争われることに。ドライの決勝ではソフトとミディアム、両スペックのタイヤを使用する義務がある。マルケロフは今回、19番グリッドからミディアムを履いてスタートし、1周目にピットインしてソフトに履きかえ、さらにもう一度レース中盤にピットインしてソフトへの再交換と給油を行なう戦略でレースに臨んだ。

マルケロフは最初のソフトタイヤで、いい走りを見せる。4周目にはこのレースでの全体ファステストラップをマークし、トップとの差も徐々に詰めていく好走ぶりであった。12周目には1号車をパスするなど善戦健闘。27周目に2度目のピットストップをして以降は中団グループの隊列のなかで前走車を抜かず、最終順位は12位にとどまるが、来日5戦目、昨季までFIA-F2選手権でシリーズ上位常連だった速さの片鱗を発揮し、今季ここまでで最高の内容のレースとなった。残り2戦に期待が膨らむもてぎ戦だった。

#8 大嶋和也選手

決勝結果：11位 (所要時間：1時間23分36秒730、ベストタイム：1分35秒877)

17番グリッド発進の大嶋は、燃料軽め&ソフト装着で出て、レース途中に2周連続でタイヤ交換&給油のピットイン、ミディアムではやはり1周しか走らない作戦で戦った。他車のピットタイミング等もあり、大嶋は暫定9番手まで上がったところで19周目と20周目に連続ピットインを敢行。この段階で順位的には一旦18番手まで下がる。展開がある程度落ち着いてきて以降、大嶋はマルケロフのふたつ後ろ、15号車を追いかける位置での走行となった。終盤には8~15番手が一列に連なり隊列化するなか、14番手で前を追い続ける戦いを演じる。49周目に15号車を、最終周にマルケロフを抜き、上位で最終周にピットインしたマシンがあったため、11位でゴールした。



アーテム・マルケロフ選手のコメント

マシンのフィーリングは良かったと思います。特にレース前半、1周目のピットインで履いたソフトタイヤでのスティントでは良いパフォーマンスを出せましたし、今季ここまでで最も良い内容のレースができたとも感じています。次の岡山戦でも、チームスタッフと一緒にマシンのインプルーブを続けていきたいと思っています。

大嶋和也選手のコメント

決勝でのペース自体はわるくなかったと思います。戦略的にも自分たちとしては予定通りに運ぶことができたのですが、似たような作戦を採ってくるライバルもいて、クリーンエア（単独）の状態で走れずに速さを発揮しきれなかった面がありました。今週は金曜（予選前日）の走り出しのマシン状態があまりいいとはいえなくて、予選で前に行けなかったことも課題として残ったと思います。今回の流れのなかで見えてきたことをしっかり検証して次の岡山戦に臨み、また上位で戦いたいです。

片岡龍也監督のコメント

結論から言いますと、今回は予選で前に行けていれば、もっといいレースができた可能性は高かったと思います。持ち込みの状態がもうひとつ決まっていなかったため、そこでの出遅れが予選に響いたところがありました。走行時間も少なく、極めて接近した戦いをしているカテゴリーなので、最初のコンマ数秒差は小さくないですね。

決勝に関しては、これも結果論で言うなら1ピット作戦の方が良かったのかもしれませんが、ただ、この暑さのなかで後方グリッドから追いつけていくためにそれぞれに勝負をかけた2ピット作戦でしたし、そのなかでドライバーたちも頑張り、ペース自体も良かったと思います。ライバルを次々に追い越していける爆発的な速さまではなかったため、なかなか抜け出せない展開にはなってしまいましたけど。とはいえ、レースでのパフォーマンスの良さを感じられたことは前向きな要素です。今回の持ち込みの状態がもうひとつだったことの要因をしっかりと洗い出して、次戦はレースウィークの最初から上の方で戦えるようにしていきたいと思っています。

シリーズランキング

マルケロフ選手	一位／ーポイント
大嶋選手	13位／6ポイント
チーム部門	10位／6ポイント



◆その他サーキット内イベント報告

◆観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約 37,000人

8月17日 土曜 (天気: 晴れ) 17,500人

8月18日 日曜 (天気: 晴れ) 19,500人

◆ピットウォーク

開催日程 8月17日 11:20~11:55

8月18日 10:45~11:30

◆キッズウォーク

開催日程 8月17日 17:00~17:30

主催 JRP、ツインリンクもてぎ
アーテム・マルケロフ、大嶋和也

ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供等を行ない、今回もたくさんのお客様をお迎えすることが出来ました。決勝レース開始前にはグリッドウォークも実施されています。

